

《Lesson 3》 いる・ある（否定文）

「いる・ある」の否定文は、基本的に「be 動詞」の部分を「be 動詞 not」の形にするだけで完成となります。

【「いる・ある」の否定文：基本の形】

There + be 動詞 + not + ．

*be 動詞と not を短縮させた形を使うことも可。

<例> There **is not (isn't)** a red pen on the table.

(赤いペンはテーブルの上にはありません)

There **are not (aren't)** ten desks in the classroom.

(10 台の机は教室にありません)

There **was not (wasn't)** a blue car in the parking lot.

(青い車は駐車場にはありませんでした)

There **were not (weren't)** enough computers for everybody.

(みんなのための十分な数のパソコンはありませんでした)

【作り方】

ステップ 1. There + be 動詞 の**肯定文**を作る。

ステップ 2. be 動詞の後に **not** を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

<例 1> 「赤いペンはテーブルの上にはありません」という文の場合。

ステップ 1. There + be 動詞 の**肯定文**を作る。

→ 「赤いペンがテーブルの上にあります」

There is a red pen on the table.

ステップ 2. be 動詞の後に **not** を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

There is not (isn't) a red pen on the table.

<例 2> 「みんなのための十分な数のパソコンはありませんでした」という文の場合。

ステップ 1. There + be 動詞 の**肯定文**を作る。

→ 「みんなのための十分な数のパソコンがあります」

There are enough computers for everyone.

ステップ 2. be 動詞の後に **not** を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

There are not (aren't) enough computers for everyone.

【ポイント！「全くない」「少しもない」という場合の any】

「全くない」「少しもない」という場合は「be 動詞+not」の後に any を足すのですが、注意点があります。それは「可算名詞の時は、be 動詞は are/were」「不可算名詞の時は、be 動詞は is/was」を使うということです。

【「全くない」「少しもない」の否定文：基本の形】

There + are/were + not + any + 複数形の可算名詞 + ～.

(There + is/was + not + any + 単数形は基本的に使われない)

There + is/was + not + any + 不可算名詞 + ～.

<例> There are not (aren't) **any** red pens on the table.

(テーブルの上に赤いペンは全くありません)

There was not (wasn't) **any** milk in the refrigerator.

(冷蔵庫に牛乳は全くありませんでした)